

Cente Technical Information

発行番号	101-0088	Rev	第1版	発行日	2014/03/14
題名	既存ファイル、ディレクトリに対し後からメタデータ保護機能を有効にした場合の不具合について(メタデータ保護機能使用時)				
情報分類	障害情報				
適用製品	・Cente FileSystem Ver6.10				
影響API	fopen, rename, remove, move, rmdir, fopen_uni, rename_uni, remove_uni, move_uni, rmdir_uni				
関連資料	なし				

【現象】

以下の手順でメタデータ保護機能を使用した場合、影響APIがエラー終了します。

【発生手順】

- 1) メディアをFAT12もしくはFAT16でフォーマットします。
- 2) 組込み機器又はWindowsPC等でメディアのルート上にファイルもしくはディレクトリを作成します。
- 3) ini_journal()でメディアにメタデータ保護管理ファイルを作成します。
(メディアのルート上に既にファイルもしくはディレクトリが存在した状態で後からメタデータ保護機能を有効にした事を意味します。)
- 4) 2)で作成したルート上のファイルもしくはディレクトリに対して影響APIを実行した時エラーで終了します。

【原因】

メタデータ保護機能では、保護対象ディレクトリエントリの存在するセクタ番号からバックアップセクタ数を算出し、メタデータ保護管理ファイルにバックアップ書込み処理を行います。

その際次の条件の場合、セクタ数計算に誤りがありバックアップ書込み処理でエラーとなっていました。

【条件】

- (1)メディアにファイル、ディレクトリが存在している状態で後からメタデータ保護機能を有効にした場合。
- (2)FAT12/16のルートディレクトリ中のディレクトリエントリが保護対象だった場合。

【回避方法】

■プログラム修正による回避方法

修正方法につきましては、弊社サポートまでお問い合わせ下さい。

以上